2015 年 11 月 20 日

The Emerging Market Weekly

国際為替部
マーケット・エコノミスト
佐々木 貴彦
03-3242-7065
takahiko.sasaki@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

齋藤 周
03-3242-7065
amane.saito@mizuho-bk.co.jp

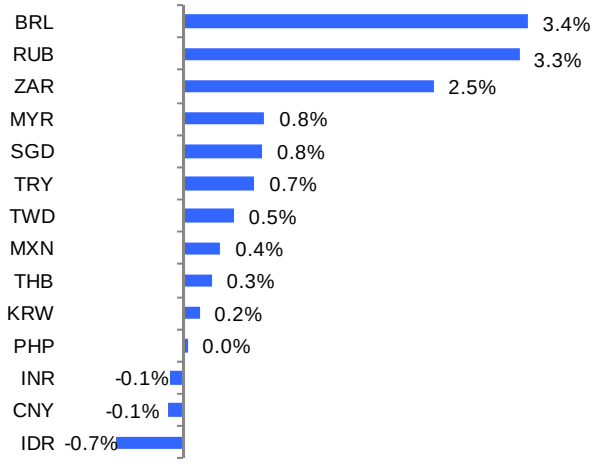
今週のエマージングマーケット

米経済指標への反応は鈍く、新興国通貨はまちまちの動きに

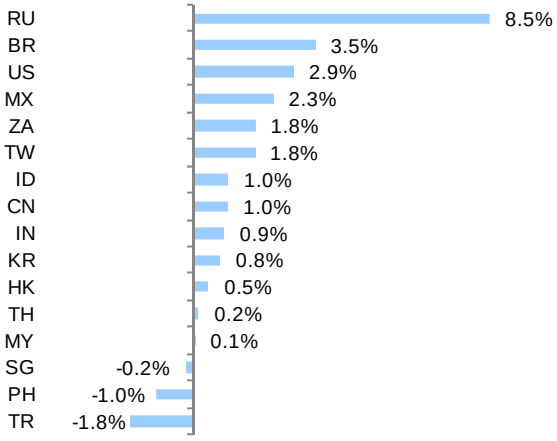
今週の新興国通貨は大半が反発。先週末にパリで起きた同時多発テロを背景に市場には地政学リスクへの警戒感、及びリスクオフムードが拡がり、ドルは上昇して新興国通貨は売られた。しかし、17 日になると市場に拡がっていたリスクオフムードも和らぎ、新興国通貨は値を戻し始めた。その後米 10 月消費者物価指数（CPI）が市場予想を上回る結果となったことからドルは強含み、新興国通貨は弱含む場面が目立った。18 日は注目された 10 月 FOMC 議事要旨で 12 月利上げの可能性が再度確認されたことからドルは上昇したが、2 度目以降の利上げについて新たな議論がなく、ドルは値を戻した。19 日には好調な米経済指標を受けてドル高に過熱感が出るものの、調整する動きが拡がりドルは下落して、新興国通貨は上昇した。

個別通貨でみると、BRL は更迭説の出ていたレビ財務相について、ルセフ大統領が留任を明言したことなどが好感され、値を伸ばした（+3.4 %）。先週末に下落した原油価格が反発したことを背景に RUB（+3.3%）は原油の反発幅を超えて上昇したほか、MYR（+0.8%）も堅調に推移した。週初に過去最安値となる 14.44 をつけた ZAR は、南ア中銀（SARB）が 25bp の利上げに踏み切ったことで上昇（+2.5%）。一方、年内の米利上げ観測を背景に IDR（▲0.7%）は 6 週間ぶりの安値をつけた。

エマージング通貨騰落率（対ドル）



エマージング株式騰落率



（注）US：米国 S&P500 種指数、CN：中国上海総合指数、HK：香港ハンセン指数、IN：インド SENSEX30 種指数、ID：インドネシアジャカルタ総合指数、KR：韓国総合株価指数、MY：マレーシア FTSE ブルサマレーシア KLCI インデックス、PH：フィリピン総合指数、SG：シンガポール ST 指数、TW：台湾加権指数、TH：タイ SET 指数、RU：ロシア RTS 指数、ZA：南アフリカ FTSE/JSE アフリカ全株指数、TR：トルコイスタンブールナショナル 100 種指数、BR：ブラジルボベスパ指数、MX：メキシコボルサ指数

（資料）ブルームバーグ

エマージングマーケット短期見通し

コモディティ市況に反応しなくなりつつある資源国通貨

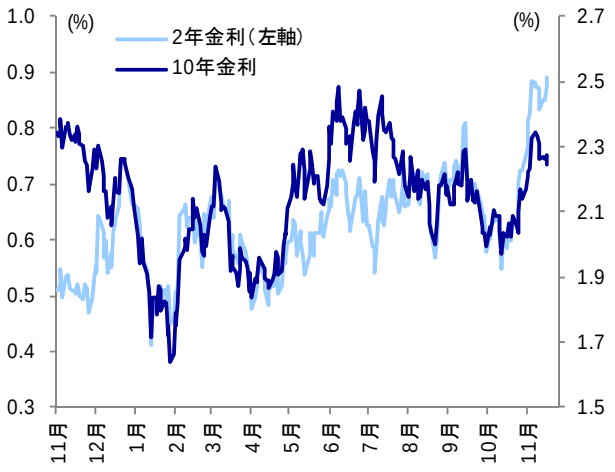
資源国通貨とコモディティ価格の動きが乖離しつつある

今週の新興国通貨、とりわけ資源国通貨は今までとは動きを異にしている。RUB を例に取り挙げれば、今年 5 月に原油価格が急落して以降、両者の値動きはほとんど一致していた。しかし、11 月に入り原油価格が再び下落した際に、RUB の反応は以前と比べて鈍く、今週にいたっては両者の動きは完全に乖離していた。この背景には、海外投資家によるロシア債券市場への資金流入があると考える。8 月以降、ロシア中銀（CBR）が政策金利を据え置いているにも拘わらず、ロシア国債金利は 9 月から急低下、タカ派の 10 月 FOMC 声明文を受けて一時上昇するも、直近は再び低下に転じている。RUB ほど顕著ではないものの、10 月の MXN や MYR も同様の傾向を見せており、資源国に資金流入の兆しがあることを示唆している。

再び債券投資フローが流入するためには、通貨の安定が必要条件

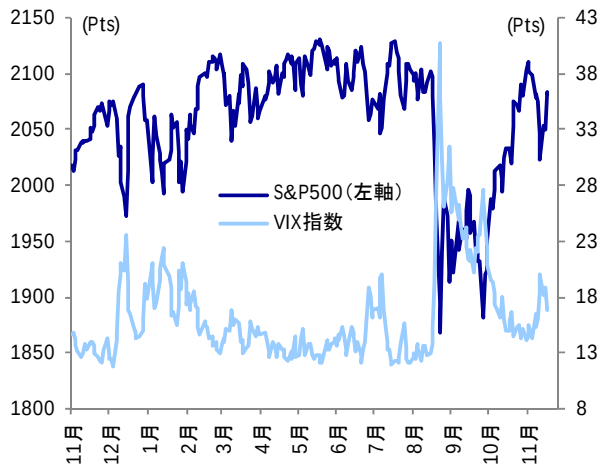
海外投資家が資源国の債券市場に回帰し始めた理由は、為替相場が安定推移を続けているためであろう。海外債券投資家にとって、最大のリスクは為替変動であり、変動が小さくなればなるほど、金利差をより多く享受できる。結果、通貨安定→債券投資資金の流入→通貨安定という好循環が生まれやすくなる。もっとも、来月初の米 11 月雇用統計や 12 月 FOMC などの重要イベントが控えている現環境下では、為替相場が大きく動く可能性が高く、資源国がこの好循環に入ったと考えるのは早計だろう。来週は、引き続き大きなイベントがなく、債券投資フローが資源国通貨の安定をもたらすものの、再来週の米 11 月雇用統計を前に再び売り地合いが強くなると考える。なお、他の新興国通貨についても、通貨高・金利低下（債券価格上昇）という動きが見られるか注視したい。特に再来週も同様の傾向が続くようであれば、海外投資家が本格的に新興国の債券市場に戻りつつあることを示唆しており、年末にかけての大きな買い材料となるだろう。

図表 1： 米国債利回りの推移（過去 1 年間）



（資料）ブルームバーグ

図表 2： 米株と VIX 指数の推移（過去 1 年間）



（資料）ブルームバーグ

エマージングマーケット:国別の注目材料

トルコ:金融政策決定会合プレビュー

インフレ圧力の高まりからCBRTは利上げを模索

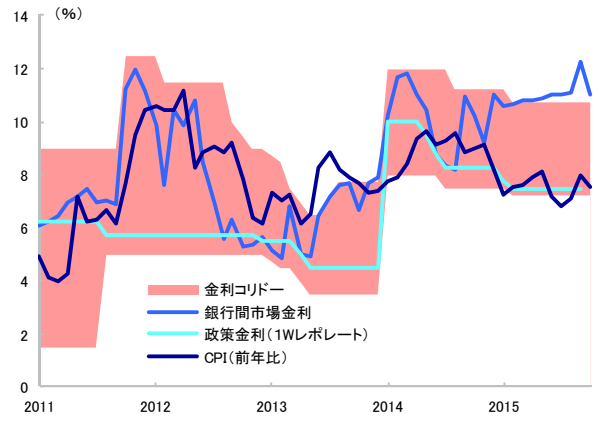
24日（火）のトルコ中銀（CBRT）金融政策決定会合では、政策金利の据え置きを予想する。前回会合（10月21日）の声明文では、9月会合から大きな変化は見られず、引き続き物価動向を見極めながら引き締めスタンスを維持するとした。その後発表された10月消費者物価指数（CPI）は前年比+7.58%と9月（同+7.95%）から3か月ぶりに伸び幅が縮小しているが、10月コアCPI（エネルギーや食料品などを除く）は同+8.92%と9月同+8.23%から加速している。また、チェリキ前労働社会保障相によると、公正発展党（与党、AKP）の公約によりトルコの最低賃金が2016年から30%引き上げられる予定である。足許のインフレ率がCBRTの目標（+5%）を大きく上回っていることや、最低賃金の引き上げによって見込まれるサービス価格の上昇は、CBRTには利上げ圧力になるだろう。但し、エルドアン大統領は16日まで開催されていたG20にて、バシュチュCBRT総裁を前にトルコの金利は高すぎるとの見方を示している。インフレ目標に鑑みるとCBRTの次の一手は利上げだが、エルドアン大統領による利下げ圧力が強まる中では利上げには踏み切れず、現状維持を決定するだろう。

ブラジル:金融政策決定会合プレビュー

BRL安や増税によるインフレ圧力再燃から、BCBは利上げを再開か

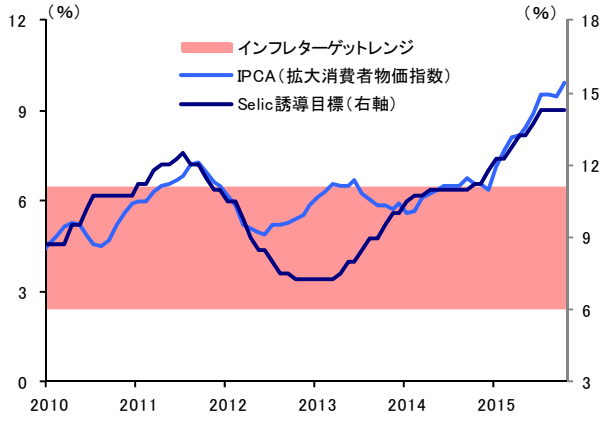
25日（水）に開催されるブラジル中銀（BCB）金融政策委員会（COPOM）では、政策金利の据え置きを予想する。前回の声明文では、インフレ目標の達成時期が「2016年末」から「対象となる期間まで」という曖昧な表現に置き換わった。また、新たに「上記目標の達成のために、金融政策を慎重に運営していく」との文言が追加されている。この背景には財政収支改善を目的とした、ブラジル政府によるガソリン税引き上げの動きがある。もし増税が実施された場合、インフレ率が加速し、BCBの物価目標（+2.5%～+6.5%）に収束しない可能性が高まるだ

図表3: トルコ 政策金利と消費者物価指数



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表4: ブラジル 政策金利と消費者物価指数



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

ろう。10 月 29 日に公表された前回会合の議事要旨では「BRL 安と財政収支を巡る不透明感が物価上昇率を抑制するのを難しくしている」、「他の政策に関係なく、警戒姿勢を続けるべき」との表現が見られた。BCB は増税が決定されるか否かを見極めるために、声明文では曖昧な表現を使用したと見られるが、議事要旨では増税の導入するしないに拘わらず、タカ派的な金融政策を運営する姿勢を見せている。前回会合後に発表された 10 月拡大消費者物価指数（IPCA）は前年比+10.28%と 9 月同+9.77%から加速しており、BCB への利上げ圧力は俄かに高まっていよう。但し、足許の BRL 相場は安値ながらも安定的に推移しており、BCB は今会合では様子見姿勢を取ると考えられる。

インド：CPI は 4 か月連続上昇も、依然 RBI の想定内に留まる

食品価格を中心にCPIは上昇し続けるも、RBI の予想値を依然下回る

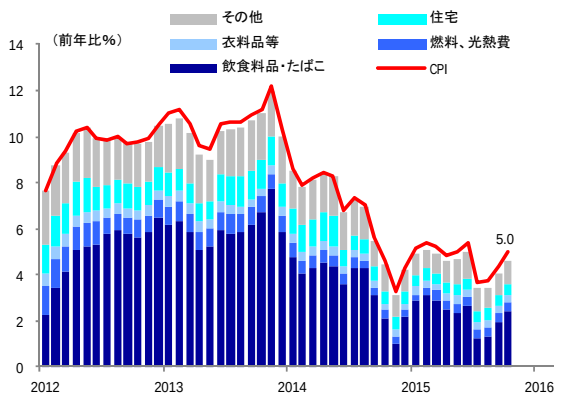
12 日に発表されたインド 10 月消費者物価指数（CPI）は市場予想（同+4.90%）をやや上回る前年比+5.00%となり、9 月（同+4.41%）から加速した。一方、コア CPI（食料品、燃料、光熱費を除く）は 10 月同+4.83%となり、9 月（同+4.65%）から伸び率は小幅に拡大した。内訳をみると、CPI の約 45%を占める食料品（9 月同+4.3%→10 月同+5.3%）が上昇を主導した。今回で CPI は 4 か月連続の上昇となったものの、インド準備銀行（RBI）は 2016 年 1 月までの物価見通しを前年比+5.8%としており、未だ中銀の想定内の結果と言える。RBI は上記見通しに基づき、9 月 29 日に「利下げを前倒し実施する」として政策金利を 50bp 引き下げており、今回の CPI 加速を受けても、当面は政策金利を据え置くと予想される。

ロシア：7～9 月期 GDP は最悪期からの脱出を示唆も、苦境は続く

7～9 月期 GDP は、4～6 月期対比改善も、縮小傾向が継続

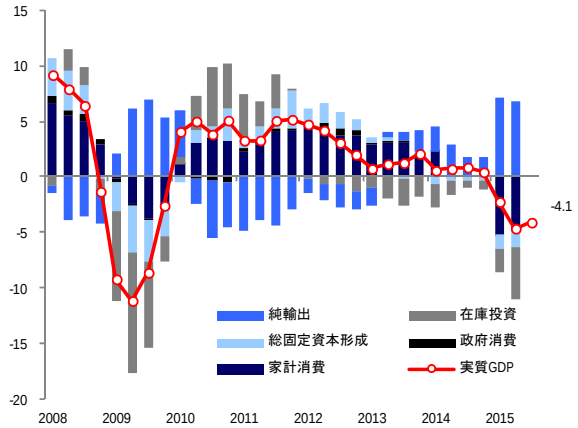
12 日に発表されたロシア 7～9 月期 GDP は前年比▲4.1%と市場予想（同▲4.4%）を上回り、4～6 月期（同▲4.6%）から減速スピードはやや緩やかとな

図表 5：インド 消費者物価指数



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 6：ロシア 実質 GDP



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

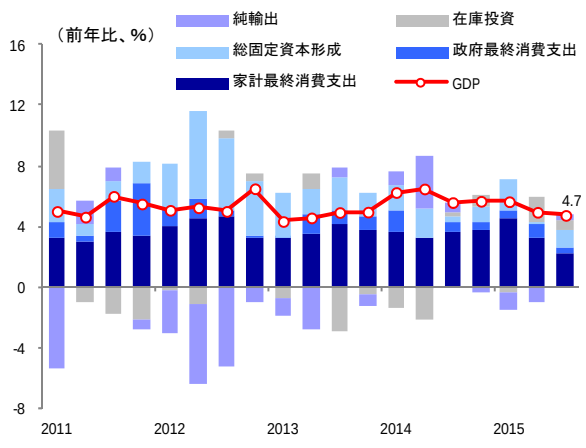
った。今次発表では GDP 総計値のみが公表されるため、詳細な内訳については 12 月の確報を待たなければならない。なお、直近の経済指標動向に鑑みると、生産・輸出が持ち直しを主導、高金利の影響で消費や設備投資は引き続き低迷、という内訳が予想される。但し、原油価格が低迷を続けている現状では、生産の回復が今後も続くとは考え難い。また、GDP の約 50%を占める個人消費は未だ縮小しており、小売売上高は昨年末（12 月：前年比+5.1%）から急落、4 月～9 月はほとんどの月で同▲9.0%前後のマイナス成長となった。10 月に至っては、更に失速し同▲11.7%と 1999 年以来の大幅な下げ幅を記録している。こうした消費動向に鑑みてもロシア経済が本格的な回復基調に戻るとは考え難い。斯かる状況下、物価上昇スピードも鈍化していることから、ロシア中央銀行（CBR）は内需回復のために早晩利下げに踏み切るだろう。

マレーシア：7～9 月期 GDP は小幅に減速

7～9 月期は、冴えない消費の伸びが GDP の減速に大きく影響した

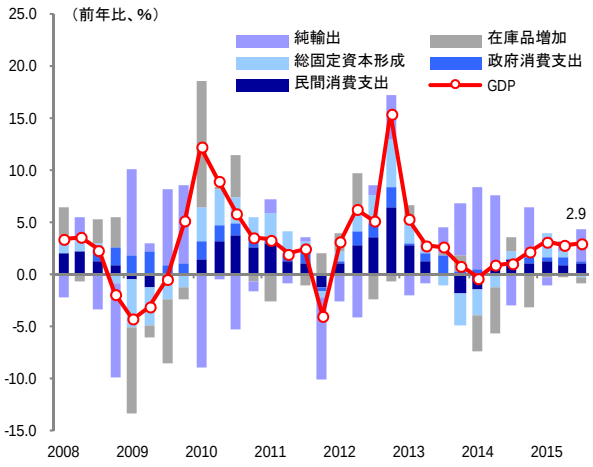
13 日に発表されたマレーシア 7～9 月期 GDP は市場予想通り前年比+4.7%（4～6 月期：同+4.9%）と減速し、2013 年 4～6 月期以来の低い伸び率となった。内訳をみると、MYR 安や物品・サービス税（GST）導入の影響から家計最終消費支出（4～6 月期：同+3.3%→7～9 月期：同+2.2%）が減速、政府最終消費支出（4～6 月期：同+0.8%→7～9 月期：同+0.4%）も下げをけん引した。一方、総固定資本形成（4～6 月期：同+0.1%→7～9 月期：同+1.1%、）の持ち直しや、輸出の回復を受けた純輸出（4～6 月期：同▲10.5%→7～9 月期：同+3.3%）の反発が成長の下支えとなった。7～9 月期は回復した輸出だが、MYR 安による一時的なものとみられ、中国経済が低迷している現状下では、再び減速傾向に戻るリスクがある。なによりも GDP の約 50%を占める個人消費が加速しなければ、マレーシア経済が再び上昇トレンドに戻ることは難しいだろう。なお、ゼティ・マレーシア

図表 7： マレーシア 実質 GDP



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 8： タイ 実質 GDP



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

中銀（BNM）総裁は「国内経済は衝撃に直面しているものの、成長は続いており底堅い」と述べており、成長の大幅鈍化はないという見方を維持している。よって、輸出が再度縮小に転じるなど経済に失速の予兆が強まらない限り、当面は政策金利を据え置くと予想する。

タイ：7～9 月期 GDP は小幅に加速もダウンサイドリスクは残存

7～9 月期の GDP は、堅調な輸出の伸びが成長をけん引もダウンサイドリスクは大きい

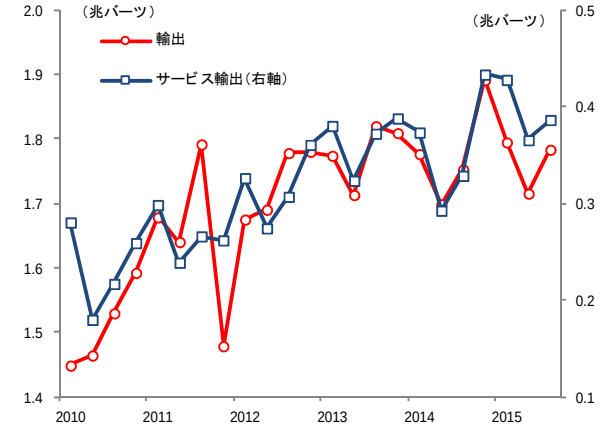
14 日に発表されたタイ 7～9 月期 GDP は前年比+2.9%（市場予想：同+2.5%、4～6 月期：同+2.8%）と市場予想を上回り、前期から小幅に加速した。内訳をみると THB 安を受けて輸出（4～6 月期：同+1.0%→7～9 月期：同+1.8%）が堅調な伸びを続け、成長率上昇の主因となった。一方、政府消費支出（4～6 月期：同+3.8%→7～9 月期：同+1.0%）、総固定資本形成（4～6 月期：同+2.7%→7～9 月期：同▲1.2%）は減速した。タイ経済のけん引役である輸出は前年比加速したものの、これは昨年 7～9 月期がクーデター後の混乱により大幅減となった反動と見られる。THB 建の輸出金額で見ると中国経済の停滞を受けて頭打ちとなっており、THB 安がなければ減少に転じていた可能性が高い。また、バンコクでの爆破テロ事件をきっかけとしてサービス輸出は減少傾向が続いており、経済のダウンサイドリスクも大きいといえよう。家計債務の拡大リスクもあるため、タイ中銀（BOT）は当面政策金利を据え置くものの、経済の減速を受けて、来年以降はハト派色を強めていくと予想する。

インドネシア：金融政策決定会合レビュー

BI は利下げ余地を指摘も、当面は政策金利を据え置きか

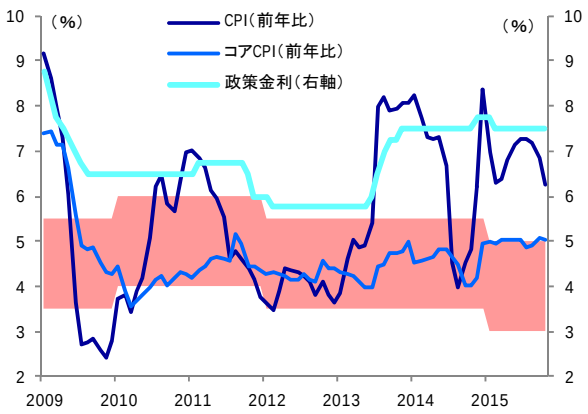
17 日に開催されたインドネシア中央銀行（BI）の金融政策決定会合では政策金利 7.50%の据え置きが決定されたほか、今後の景気下支えを目的に預金準備率が 8.00%から 7.50%に引き下げられた。声明文では、前回に引き続き利下げ余地を指摘する文言が記載されたが、マクロ経済に対する認識が前回会合の「経済の安定性に対する下押し圧力が緩和した」から「経済の安定性の

図表 9： タイ 輸出（THB 建）



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 10： インドネシア 政策金利と消費者物価指数



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

改善は継続している」に上方修正されている。また、物価についても 2015 年は BI の目標（+3%～+5%）の下限になるとの見通しや、財政赤字が GDP 比▲2%に抑制されるとの見方が示されており、全体として楽観的な内容だった。なお、政府当局からは景気下支えを目的とした利下げ圧力が続いている模様だが、マルトワルドヨ BI 総裁は金融市場に対する「強い警戒を続ける必要がある」と発言しており、依然として金融緩和への慎重姿勢を崩していない。また、アディチャスワラ副総裁は今会合での金利据え置きの理由を 12 月に見込まれる米利上げだとしている。BI としては米利上げの影響が大きい年内に利下げは行いたくないが、今回の預金準備率引き下げの効果が不十分であった場合や、IDR 相場が安定的に推移した場合には今後利下げを行うことも選択肢に入れているのだろう。また、来年 1 月にはベース効果剥落によるインフレ率の一時的な低下が確認されるため、年明け後に BI が利下げに踏み切る可能性は高まると考えられる。

エマージング経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
11月13日 (金)	マレーシア	3Q GDP(前年比)	4.7%	4.7%	4.9%	--
13日 (金)	マレーシア	3Q 経常収支MYR	5.7B	5.1B	7.6B	--
13日 (金)	インドネシア	3Q 経常収支	--	-$4000M	-$4477M	--
16日 (月)	タイ	3Q GDP(前年比)	2.5%	2.9%	2.8%	--
16日 (月)	インドネシア	10月 貿易収支	$725M	$1019M	$1017M	$1030M
16日 (月)	インド	10月 卸売物価(前年比)	-3.80%	-3.81%	-4.54%	--
16日 (月)	フィリピン	9月 海外送金(前年比)	-0.4%	4.3%	-0.6%	--
16日 (月)	インド	10月 貿易収支	-$1.11B	-$0.97B	-$1.05B	--
17日 (火)	インドネシア	11月 ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ銀行ﾚﾌｧﾚﾝｽ･ﾚｰﾄ	7.50%	7.50%	7.50%	--
17日 (火)	シンガポール	10月 非石油地場輸出(前年比)	-3.0%	-0.5%	0.3%	--
20日 (金)	マレーシア	10月 消費者物価指数	2.5%	--	2.6%	--
20日 (金)	台湾	3Q 国際収支：経常収支	--	--	$16550M	--
23日 (月)	シンガポール	10月 消費者物価指数	--	--	-0.60%	--
23日 (月)	台湾	10月 鉱工業生産	--	--	-5.32%	--
23日 (月)	フィリピン	10月 総合国際収支	--	--	$219M	--
23～27日	タイ	10月 輸出(通関ﾍﾞｰｽ/前年比)	-7.67%	--	-5.51%	--
23～27日	タイ	10月 貿易収支(通関ﾍﾞｰｽ)	$2202M	--	$2790M	--
25日 (水)	シンガポール	3Q GDP(前年比)	1.4%	--	1.4%	--
25日 (水)	フィリピン	9月 貿易収支	--	--	-$954M	--
26日 (木)	韓国	11月 消費者信頼感	--	--	105.0	--
26日 (木)	フィリピン	3Q GDP(前年比)	6.30%	--	5.60%	--
26日 (木)	シンガポール	10月 鉱工業生産(前年比)	--	--	-4.80%	--
26日 (木)	インドネシア	10月 マネーサプライM2(前年比)	--	--	12.4%	--
27日 (金)	台湾	3Q F GDP(前年比)	-1.0%	--	-1.0%	--
中東欧・アフリカ						
11月17日 (火)	ロシア	10月 鉱工業生産(前年比)	-4.2%	-3.6%	-3.7%	--
18日 (水)	南アフリカ	10月 消費者物価指数(前年比)	4.7%	4.7%	4.6%	--
18日 (水)	南アフリカ	9月 小売売上高(実質値、前年比)	4.1%	2.7%	3.9%	4.0%
19日 (木)	ロシア	10月 実質小売売上高(前年比)	-10.0%	-11.7%	-10.4%	--
19日 (木)	南アフリカ	11月 SARB政策金利	6.00%	6.25%	6.00%	--
20日 (金)	トルコ	10月 消費者信頼感指数	--	--	62.8	--
24日 (火)	南アフリカ	3Q GDP(前年比)	--	--	1.2%	--
24日 (火)	トルコ	11月 指標ﾚﾎﾟﾚｰﾄ	--	--	7.50%	--
24日 (火)	トルコ	11月 翌日物貸出金利	--	--	10.75%	--
24日 (火)	トルコ	11月 翌日物借入金利	--	--	7.25%	--
ラテンアメリカ						
11月18日 (水)	ブラジル	9月 経済活動(前年比)	-6.00%	-6.18%	-4.47%	-4.61%
20日 (金)	メキシコ	9月 経済活動IGAE(前年比)	2.60%	--	2.58%	--
20日 (金)	メキシコ	3Q GDP(前年比)	2.40%	--	2.20%	--
23日 (月)	メキシコ	9月 小売売上高(前月比)	--	--	1.50%	--
25日 (水)	ブラジル	9月 FGV消費者信頼感	--	--	75.7	--
26日 (木)	ブラジル	11月 SELICﾚｰﾄ	14.25%	--	14.25%	--
25日 (水)	メキシコ	3Q 経常収支	--	--	-$7980M	--
26日 (木)	ブラジル	10月 経常収支	--	--	-$3076M	--
27日 (金)	ブラジル	10月 FGVｲﾝﾌﾚIGPM(前年比)	--	--	10.09%	--

(注)2015 年 11 月 20 日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
(資料)ブルームバーグ

エマージング通貨相場見通し

		2015年 1～10月（実績）	SPOT	12月	2016年 3月	6月	9月	12月
対ドル								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	6.1818 ～ 6.4489	6.3828	6.45	6.40	6.36	6.30	6.28
香港ドル	(HKD)	7.7496 ～ 7.7744	7.7503	7.76	7.76	7.76	7.76	7.76
インドルピー	(INR)	61.295 ～ 66.890	66.185	66.5	66.5	65.0	63.0	62.5
インドネシアルピア	(IDR)	12378 ～ 14828	13775	14500	14500	14000	13750	13500
韓国ウォン	(KRW)	1065.21 ～ 1208.72	1161.68	1200	1180	1150	1120	1090
マレーシアリンギ	(MYR)	3.4960 ～ 4.4812	4.3425	4.40	4.40	4.15	4.00	3.90
フィリピンペソ	(PHP)	43.950 ～ 47.059	47.077	46.9	47.0	46.3	45.6	44.9
シンガポールドル	(SGD)	1.3151 ～ 1.4335	1.4132	1.39	1.38	1.36	1.34	1.33
台湾ドル	(TWD)	30.354 ～ 33.329	32.663	32.90	32.70	32.40	31.90	31.70
タイバーツ	(THB)	32.29 ～ 36.51	35.78	36.9	37.0	36.5	36.0	35.5
ベトナムドン	(VND)	21256 ～ 22547	22473	22550	23000	23000	23000	23000
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	48.1365 ～ 71.8030	64.5928	70.00	68.00	65.00	60.00	60.00
南アフリカランド	(ZAR)	11.2575 ～ 14.1588	14.0292	14.00	13.50	13.00	13.00	13.00
トルコリラ	(TRY)	2.2727 ～ 3.0752	2.8435	3.30	3.40	3.50	3.50	3.50
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	2.5493 ～ 4.2478	3.7179	4.05	4.30	4.40	4.30	4.20
メキシコペソ	(MXN)	14.4357 ～ 17.3425	16.6267	17.30	17.00	16.90	16.60	16.40
対円								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	18.210 ～ 20.285	19.257	18.91	19.06	18.87	18.73	18.47
香港ドル	(HKD)	14.946 ～ 16.233	15.859	15.72	15.72	15.46	15.21	14.95
インドルピー	(INR)	1.747 ～ 1.971	1.857	1.83	1.83	1.85	1.87	1.86
インドネシアルピア	(100IDR)	0.806 ～ 0.969	0.892	0.841	0.841	0.857	0.858	0.859
韓国ウォン	(100KRW)	9.688 ～ 11.266	10.632	10.17	10.34	10.43	10.54	10.64
マレーシアリンギ	(MYR)	26.646 ～ 34.334	28.352	27.73	27.73	28.92	29.50	29.74
フィリピンペソ	(PHP)	2.521 ～ 2.800	2.616	2.60	2.60	2.59	2.59	2.58
シンガポールドル	(SGD)	82.40 ～ 92.89	86.97	87.77	88.41	88.24	88.06	87.22
台湾ドル	(TWD)	3.551 ～ 4.078	3.763	3.71	3.73	3.70	3.70	3.66
タイバーツ	(THB)	3.267 ～ 3.737	3.435	3.31	3.30	3.29	3.28	3.27
ベトナムドン	(100VND)	0.5178 ～ 0.5768	0.5469	0.54	0.53	0.52	0.51	0.50
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.644 ～ 2.652	1.904	1.74	1.79	1.85	1.97	1.93
南アフリカランド	(ZAR)	8.431 ～ 10.453	8.759	8.71	9.04	9.23	9.08	8.92
トルコリラ	(TRY)	38.853 ～ 52.258	43.201	36.97	35.88	34.29	33.71	33.14
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	28.163 ～ 46.148	32.851	30.12	28.37	27.27	27.44	27.62
メキシコペソ	(MXN)	6.764 ～ 8.199	7.391	7.05	7.18	7.10	7.11	7.07

（注）1. 実績の欄は 10 月 30 日まで。SPOT は 11 月 20 日の 8 時 30 分頃。2. 実績値はブルームバーグの値。3. 予想の欄は四半期末の予想。
（資料）みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。